

# コミュニティ・スクールだより



第21号

名張市教育委員会事務局発行  
令和3（2021）年7月20日

## 文部科学省 コミュニティ・スクールの 在り方等に関する検討会議 Part.1

学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）は平成29年の法改正によって設置が努力義務となり、全国的な設置数は増加傾向にあります。保護者や地域住民の学校運営への参画や地域と学校が連携・協働した取組が行われるなどの一定の成果が出てきています。一方で地域と学校の連携・協働体制の在り方や進捗に、学校間や学校種の差異があることなどが課題となっています。「コミュニティ・スクールの在り方等に関する検討会議」は、法改正から5年を迎えることから、今後の学校運営協議会の活動の充実に向け、文部科学省が外部有識者の協力を得て検討を行うために設置したものです。

検討事項として、

- (1) コミュニティ・スクールの在り方について
- (2) コミュニティ・スクールの設置促進、活動の充実について
- (3) その他、地域と学校の連携・協働に関することについて

の3つがあげられ、これまでに3回の検討会が開かれ検討が重ねられ、コミュニティ・スクールの在り方等に関する検討会議中間まとめ（骨子案）が検討されました。

([https://www.mext.go.jp/content/20210623-mxt\\_chisui02-000016237\\_8.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210623-mxt_chisui02-000016237_8.pdf))

その中間まとめの中で、**コミュニティ・スクールの推進の必要性やこれからのコミュニティ・スクールの在り方等**について、今後の検討事項が次のようにまとめられています。

### （コミュニティ・スクールの意義、役割）

### 【一部抜粋】

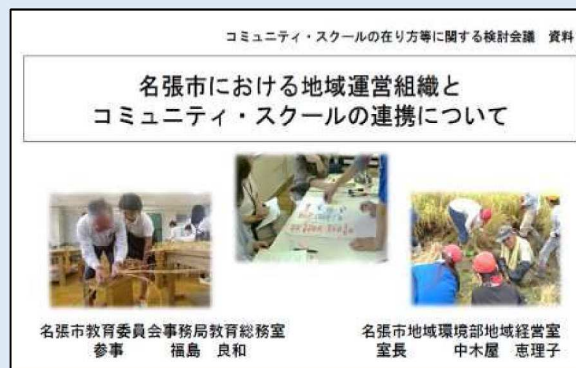
○ コロナ禍だからこそ見えてきた学校の本質もある。校長や教職員だけでなく、保護者や地域住民が参画し、目標の共有・その目標達成のための対話・協働、そして評価する令和型の新たな学校改革が必要である。

研修資料等に活用可

- 災害やコロナ禍のような困難な状況においても保護者や地域住民の理解と協力を得て、混乱なく安定した学校経営を行うことができる。また、生徒指導上の問題の根底には、児童生徒のコミュニケーション能力の低下と直接体験の不足があり、家庭や地域の支援を得て補っていくことが必要である。
- 震災復興の中でコミュニティ・スクールは非常に重要な役割を果たした。防災活動に地域との協働は確実に欠かせないものであり、コミュニティ・スクールが重要な役割を果たす。
- 次代を担う子供たちに必要な資質・能力を育むためには、コミュニティ・スクールを活かした学校運営が重要。また、コミュニティ・スクールの機能を活用することで、地域の目標を共有し、特色ある教育課程を再編し、地域の人的、物的資源を活用した教育活動を展開することができる。
- コミュニティ・スクールや地域学校協働活動は、学校改革のツールとして、全ての学校や校長に求められる。【続きは、次号に掲載予定】

## 検討会議の中で、名張市が事例発表！

### 「名張市における地域運営組織と コミュニティ・スクールの連携について」



全国に発信!!  
高評価を  
いただきました。

発表資料等

### 文科省にHP掲載

※議事録については、後日、掲載予定  
<アクセス方法>  
文部科学省→政策・審議会→審議会  
情報→調査研究協力者会議等（初等  
中等教育）→コミュニティ・スクールの  
在り方等に関する検討会議

([https://www.mext.go.jp/content/20210623-mxt\\_chisui02-000016237\\_7.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210623-mxt_chisui02-000016237_7.pdf))

### 【委員の感想・意見等より】

- 今日の地域運営組織についての事例発表、大変勉強になりました。私自身こういう名張市さんのようなすばらしい取組があるということを知ることができて、本当に良かったなと思います。
- 地域運営組織に関して、発表いただきましたように、まさに地域の基盤づくり、コミュニティの形成に非常に重要な位置づけになるかと思っております。また、その活動に関しましては、名張市さんからも発表がありましたように、地域学校協働活動とリンクをするようなものと考えておりますし、それをコミュニティ・スクールと連携して進めるといことで、非常に重要な取組になるかと思っております。

# コミュニティ・スクールだより

第22号

名張市教育委員会事務局発行  
令和3（2021）年7月27日



## 文部科学省 コミュニティ・スクールの 在り方等に関する検討会議 Part.2

前号に続き、中間まとめの中で、これからのコミュニティ・スクールの在り方等について、今後の検討事項が次のようにまとめられています。

### （総論） 【一部抜粋】

- コミュニティ・スクールは学校運営の在り方、学校そのものを見直すもの。教職員や学校運営協議会の委員だけでなく、社会総掛かりで教育にかかわり、誰もが地域の教育の担い手であるという風土を作っていく原点にあるべき。
- コミュニティ・スクールは立ち上げることがゴールではなく、継続性を持つ仕組みとして地域に根差したものとしていくことが重要。

### （これからのコミュニティ・スクールに求められる役割・機能）

- コミュニティ・スクールは、セクターを超えたつながりで社会課題を解決していくという実践をまさに積み重ねてきたもの。これまでの取組で得られた様々な知見をコミュニティ・スクールへ戻していくことで大きな可能性を持っている制度ではないか。
- 学校の課題について地域と学校が共有し、互いにアイデアを出していけるような機能や体制を持つことが重要。
- コミュニティ・スクールの在り方を考えるにあたり、地域学校協働活動や社会教育主事の役割も重要。地域学校協働活動を盛んにしていくためには、その学校の周りに豊かな社会教育の活動があることが重要。

検討会議は、12月まで継続して開催される予定です。今後、コミュニティ・スクールをツールにして創っていく学びの姿が見えてくることになると思います。



## 「学習指導要領」前文には

### これからの学校は

- 自分の良さや可能性を認識
- 他者を尊重・人々と協働・社会の変化を乗り越え
- 豊かな人生を切り拓き、社会の創り手となる

コミュニティ・スクールの推進・充実をめざして！

### 教育課程を通して

- 「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有
  - 必要な学習内容をどのように学び
  - どのような資質・能力を身に付けられるようにするか
  - 社会との連携及び協働により実現を図る
- =「社会に開かれた教育課程」の実現

地域の協力体制  
(地域学校協働活動)

コミュニティ・スクール  
(学校運営協議会)

### 学習指導要領を踏まえた 教育活動の更なる充実

- 教育水準を全国的に確保
- 各学校が特色を生かし創意工夫を重ね
- 教育実践や学術研究の蓄積を生かす
- 児童生徒や地域の現状や課題を捉え
- 家庭や地域社会と協力する

### 全ての大人に期待される役割

- 生徒が学ぶことの意義を実感できる環境を整え
- 一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていく
- 教職員・学校関係者・家庭・地域の人々
- 児童生徒や学校に関わる全ての大人に期待される役割

「名張で教育を受けてよかった！」  
「名張で育てよかった！！」  
と実感できる  
子どもの育成

ふるさとの未来を託せる子どもを育てるために

# コミュニティ・スクールだより



第23号

名張市教育委員会事務局発行  
令和3（2021）年8月3日

## 学校運営協議会を 充実させるためのポイント



市内小中学校では、1学期を無事終了することができました。1学期には、コロナ禍での第1回学校運営協議会の開催となりましたが、書面決議や会議時間の短縮、開催時期の変更等、各学校の実情等を考慮した中での開催となり、大変ご苦勞をおかけしました。

ここで、下記のポイントをチェックしながら、これまでの学校運営協議会の運営を振り返り、夏季休業中や2学期以降に向けた取組の充実に生かしていただきたいと思います。

### ◆コミュニティ・スクールの仕組みを有効に活用するポイント

- 「めざす子どもの姿」「めざす学校の姿」等の目標やビジョンが、具体的かつ明確である。また、それらを全教職員が共有し、全校体制でコミュニティ・スクールの取組が推進されている。
- 学校の課題や目標、ビジョンを学校・家庭・地域が共有し、学校支援や地域貢献等の具体的な取組が企画されている。
- 子どもの変容をもとに取組を評価し、改善に向けた協議がなされている。
- 学校運営協議会の取組が、教職員の校務分掌や地域づくり組織、PTA等の取組と連動している。



### ◆学校運営協議会の開催にあたって、成果を生み出すポイント

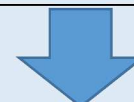
#### 開催前

- 校長と会長等が協議会のねらいを確認したり、協議の方向性を明確にするための打合せを行ったりする。  
※協議事項が「めざす子どもの姿」の実現に向けた内容になっているか。「学校運営の充実に向けた内容であるか。」について検討を行う。
- 協議を充実させるため、必要な資料を委員に事前配布するなど、協議事項について意見をもって出席できるように工夫する。



#### 開催時

- 活発な意見の発表や議論ができる雰囲気づくりをする。
- 開始・終了の時刻を厳守する。
- 学校課題等の情報をわかりやすく提供・説明する。
- 熟議の時間を十分確保するなど、参加者から幅広く意見を取り入れる工夫をする。
- 協議したことを、①すぐに取り組めるもの、②継続的に協議が必要なもの、③時間をかけ、様々な調整をしながら実現していく必要があるものなどに整理する。



#### 開催後

- 協議した内容は全教職員で共有するとともに、保護者や地域住民にも学校だよりやホームページ等で広く発信し、情報の共有に努める。
- 協議会で議論した内容をもとに、めざす姿の達成に向けて、できることから具体的な協働活動（学校運営への参画、学校支援の充実、地域貢献の場づくり）に結び付けていく。
- 協議内容や協働活動の見える化を図る。

# コミュニティ・スクールだより

第24号

名張市教育委員会事務局  
令和3（2021）年12月2日発行

## 令和3年度 教育実践交流会 開催

テーマ

### ～コミュニティ・スクールの推進・充実～

11月27日（土）に令和3年度名張市教育実践交流会を開催しました。この教育実践交流会は、子どもたちにとって望ましい教育環境や学校等における教育実践について、関係者が一堂に会して共通理解を図り、取組の発展につなげる機会が必要であることから、教育課題や重点取組の一つをテーマに開催することになりました。

本年度は、令和2年度に市内全ての小中学校が学校運営協議会設置校（コミュニティ・スクール）となったことを踏まえ、「コミュニティ・スクールの推進・充実」をテーマに実施しました。

当日は、100名を超える方の参加をいただき、錦生赤目小学校と北中学校の実践発表に引き続き、短時間ではありましたが、全体会の中で発表いただいた4名の方と参加いただいた皆様との意見交流を行うことができました。

最後には、三重県教育委員会事務局小中学校教育課の森清知指導主事に名張市の取組についてご助言をいただきました。



## 全体会でのご意見から・・・

全体会で地域の皆様から、「ふるさとを愛する気持ちを持ってもらいたい、地域の良さを学んでもらいたい」「学校は地域の中心地であるから、入りやすい、親しみやすい学校づくりをしてほしい」「学校のお役に立てることがうれしい」「地域が学校をバックアップして、子どもたちを一人前にするために頑張っていく」等の意見が出されました。これは、子どもたちの学びや成長を中心に据え、コミュニティ・スクールに関わる皆さんに共通した思いであると感じました。



## ☆錦生赤目小学校の実践発表☆

「コミュニティ・スクールから見えてくるもの～これからの学校と地域のつながり～」

発表者：校長 谷口雅彦 さん、学校運営協議会会長 藪本寧男 さん

素晴らしいと感じたことは、学校運営協議会で、学校からの一方的な説明に終わらせず、具体的なテーマを設定して、毎回熟議を行っているというところです。その時々が必要となるテーマについて、学校や地域に何ができるかということや議論し、具体的な取組につなげているというところは、まさに、学校運営協議会の本来の姿であると思いました。どうしても、毎年行っている学校行事についての話が中心となっているという学校が多い中、大変意義深い取組であると思います。また、地域貢献の場づくりにおいても、子どもが参加するだけでなく、参画する取組にしていくということも素晴らしい。そこに、学校支援ボランティアの方々が様々な形でご協力くださることによって、学校と家庭、地域が一体となって、地域の子どもの成長を支えていただいているということが伝わってきました。会長さんが、「学校や地域が変わってきた、地域が学校に親近感を感じている」とお話しいただいたのは、学校運営協議会で、熟議を重ねて、それを実行しているからだと思います。子どもたちや教職員、そしてボランティアや地域の方々のどちらにとっても意義深いものになっていると思います。

【県教委小中学校教育課 森清指導主事の助言より】



## ☆北中学校の実践発表☆

「より実働的な学校運営協議会をめざして」

発表者：校長 山崎博史 さん、学校運営協議会副会長 古谷久人 さん

コミュニティ・スクールの組織づくり、体制づくりについて教えていただきました。学校運営協議会だけでなく、学校運営部会、学校支援部会、地域連携部会の3部会の部会長会という組織があるというのが、特徴的だと思いました。その会で、学校運営協議会のあり方や持ち方について常に検討し、また、しっかりと打ち合わせを行うからこそ、それぞれの部会が担当する分野も多岐にわたりますが、北中学校に関わる全ての方々が自分事として捉えて、立ち上げから大切にされている当事者意識を持って

活動を進めているというように思いました。円滑な学校運営協議会のために、事前に資料を配布したり、熟議のテーマを予告したりするという取組や、学校運営協議会について、教職員がなかなか関わりを持っていないという課題もある中、その意見や思いを反映させるということも素晴らしいと思いました。

【県教委小中学校教育課 森清指導主事の助言より】



## ～市内全ての学校、地域、学校運営協議会で～

今後は、校長をはじめ先生方や地域の皆さんが集まる機会等に、それぞれの学校運営協議会の運営やコミュニティ・スクールの取組等を共有し、学校と地域をつなげ、より広がりのあるものにしていきましょう。また、中学校区内の情報を共有することが、より一層、実効性のあるものになっていくと考えています。

学校・家庭・地域・児童生徒のつながる仕組み＝コミュニティ・スクール。

# コミュニティ・スクールだより

第25号

名張市教育委員会事務局発行  
令和3（2021）年12月8日

## 「地域とともにある学校」の運営に必要な機能

### ～学校運営協議会の運営・協議の改善～

「地域とともにある学校（コミュニティ・スクール）」の運営に欠かせない機能（3つの視点）があります。「熟議」「協働」「マネジメント」の3つです。その中でも「熟議」は、学校運営協議会において、学校と地域が、ビジョンや課題、情報等を共有し議論をすることで意思を形成する重要な場であり、学校と地域が連携・協働していくための基盤とされています。「熟議」とは、多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねながら課題解決をめざす対話のことです。

地域連携を深め、地域とともにある学校づくりを進めるためには、学校運営協議会の協議の一層の充実が欠かせません。この中で「熟議」が活発に行われる市内小中学校の学校運営協議会が増えてきました。「コロナ禍でもできる取組」や「コロナ禍だからこそできる取組」を地域とともに創意工夫して進めている学校があり、子どもたちや地域にとってよりよい成果も現れてきています。報告や説明、意見交流で終わるのではなく、学校の課題の解決につながる充実した協議や熟議となるよう工夫していきましょう。今後も、学校運営協議会（各部会を含む）での熟議が盛んになり、学校教育目標やめざす子ども像の実現に向けた保護者・地域との連携・協働が進むことを願っています。

熟議で共有したビジョンや目標の体制に向けて、力を合わせて「子どもたちのため」に取り組めます。熟議で出た意見は、すぐに全てが実行できるわけではありませんが「できることから協働を始める」ことで、徐々に多くの人が関わる協働体制が構築されていき

【運営・協議の工夫】



## 各学校運営協議会の熟議の様子・工夫

### 箕曲小学校

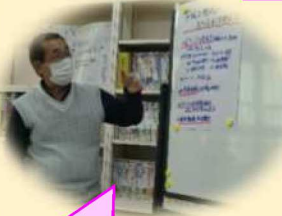


2グループに分かれて熟議、発表  
テーマ  
「少人数を生かした学校教育・発信  
方法・地域との連携」



学校・地域・PTAでそれぞれ取り組んでいくことを確認しました。

### 蔵持小学校



グループで話し合ったことを発表しています。（全体交流）



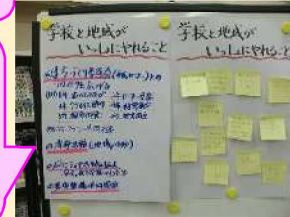
前回の熟議で「どんな子どもになってほしいか。できることは。」についての意見をまとめて提示しました。

タブレット端末を活用して、前回の付箋を拡大して見ることができました。



3グループに分かれて熟議、ブレインストーミングをして意見をまとめ、発表  
テーマ  
「学校と地域が一緒にやれることは」

話し合ったことをまとめました。また確認ができるように「見える化」しました。



### 比奈知小学校



★学校と家庭地域で協働してできること＝ピンク色付箋  
★地域でできること＝黄色付箋

全体で協議する中で「地域課題」も出されました。



グループで話し合ったことを発表しています。

2グループに分かれて熟議、発表  
テーマ「『自分が好き』と感じられる子どもの育成について」

次は、学校、家庭、地域それぞれができることを考えていきます。

熟議したことから、区分しました。  
①すぐに取り組めるもの  
②継続的に協議が必要なもの  
③時間をかけて様々な調整しながら実現していく必要があるもの

# コミュニティ・スクールだより

第26号

名張市教育委員会事務局発行  
令和3(2021)年12月15日

## 連携・協働の視点 ～学校と地域をつなぐ 防災訓練～

11月20日(土)に行われた名張市総合防災訓練に際し、市内の中学校では、学校や地域の実情に応じた防災訓練・防災学習が実施されました。

**桔梗が丘中学校**では、全校生徒が居住地で行われる地域防災訓練に参加することにより、地域の方とふれあい、地域住民の一員であることを自覚し、災害発生時には地域住民と協働した行動がとれることを目的に実施されました。学校運営協議会でも訓練に向けて熟議を行いました。



①



②

- ①地域の方による防災講話
- ②屋内簡易テント設営
- ③地域住民との交流
- ④屋外テント設営
- ⑤消火訓練

桔  
中



③



④



⑤

### ★コミュニティ・スクールの視点★

「CSとして何に取り組んでいるか」ではなく(取組ありきではなく、取組をして終わってしまうのではなく)、

1. 子どもたち(児童生徒)により変容が見られるか。
  2. 学校が組織体として機能し、教員の豊かな教育活動が主体的に展開しているか。
  3. 地域住民の学びや動きが広がり、住民のつながりが生まれ、地域が元気になっているか。
- の3点が重要です。

**名張中学校**では、在宅時での災害を仮定して、生徒個々が地域の避難所(一時避難所と市指定避難所)を確認しました。予測不能な災害に対し、自分の身を守るだけでなく、地域の一員として自分の安全を確保したうえで、災害時に積極的に活躍できるように、地域に出向いての学習を進めました。タブレットを活用するなど帰宅後も課題に取り組みました。

名  
中



【一時避難所参集】



【市指定避難所参集】

**北中学校**では、薦原地区、美旗地区からなる「北中学校避難所運営委員会」を中心に避難所運営訓練が行われました。生徒会のメンバーを中心に訓練に参加し、他の生徒はその様子を視聴し、zoomを活用したオンラインで防災学習を行いました。災害が起こった時に、地域の一員として何ができるかを考える機会となりました。

北  
中



【コロナ対策健康チェック】



【物資運搬】



【屋内テント設営】

「中学生は、地域の戦力だ！」  
と褒められました。

## 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて

学習指導要領では“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という理念を学校と地域が共有し共に連携・協働しながら未来の創り手となるために必要な資質・能力を子どもたちに育てていくことが重視されています。そのためには**校長の意図やマネジメントが重要**です。

この理念に基づき学校の教育目標やビジョンを保護者や地域の皆さんと共有し、地域と一体となって子どもたちの成長を育む「地域とともにある学校」の実現につなげていきたいと思います。

# コミュニティ・スクールだより



第27号

名張市教育委員会事務局発行  
令和3（2021）年12月22日

## つつじが丘小6年生 地域へアイデア提案 「地域をよりよくするために！！」

つつじが丘小学校で12月3日（金）、6年生111人と地域づくり組織の関係者らで、地域をよりよくするための方法を話し合う懇談会が開かれました。児童からは交通安全やごみ問題の改善策等のさまざまな提案があり、参加した地域の方々には児童の声にメモを取るなど熱心に耳を傾け、コメントを返していました。

地域からは、地元のつつじが丘・春日丘自治協議会や子どもの安全を守る会NPO法人コアラ、つつじが丘交番勤務の警察官ら12人が出席。児童たちは10月以降、家庭科と総合的な学習の時間を使って地域の課題を調べ、タブレット端末を使ってプレゼンテーションの準備を進めてきました。



当日の発表では、2～10人前後でグループになり、1クラス3グループの計9グループが発表をしました。【以下、地域課題（テーマ）】▽地域づくり（空き家対策）▽交通安全▽環境問題（ゴミ対策、サル被害防止）▽公園遊具の設置等

「ごみのない町にするために」では、ごみやたばこの吸い殻が落ちているのを目にすることから、きちんとしたごみ箱を設置することや、ポスターの掲示、ごみ拾いイベントの実施等の提案がされました。また、交通事故防止のためにオリジナル反射材を作る提案をしたグループは、ドライバーが夜間に歩行者を見つけやすくなるだけでなく、つつじが丘のご当地キャラクター「えみらる」をあしらうことで「地域の宣伝や活性化につながる」と提案の説明がありました。

「提案をもとに行政に要望をしたり、自治会でも取り組んでいきたい」との回答がありました。

コミュニティ・スクールから  
スクール・コミュニティへの実践

地域の出席者からの、横断歩道に設置している横断旗を新たに作ってほしいとの依頼に、児童は全員の手で承諾しました。

## 「子ども（学校）を核とした地域づくり」への取組

本市では、「地域とともにある学校づくり」と「子ども（学校）を核とした地域づくり」の一体的な推進を目指して努めています。「地域とともにある学校づくり」は、少しずつ成果として現れてきましたが、「子ども（学校）を核とした地域づくり」は、更なる取組が必要であると認識しています。そこで、「子ども（学校）を核とした地域づくり」について、提唱されてきた社会的背景や国の動向等を共有したいと思います。

「子ども（学校）を核とした地域づくり」が提唱されてきた主たる社会的背景

### ◆社会の動向

- ・少子高齢化の急激な進行
- ・グローバル化や情報化の進展
- ・地域社会のつながりや支え合いの希薄化による地域教育力の低下

### ◆教育を取り巻く状況

- ・児童生徒数の減少
- ・子どもの規範意識等への課題
- ・学校が抱える課題の複雑化、困難化

学校課題を地域・学校の協働により解決を図ることを通じて、地域社会のつながりを再生し、地方創生の動きへ進展してきたこと等、地域のシンボルである学校が注目。

### 国の動向「学校を核とした地域づくり」の提唱

～平成26年閣議決定「まち・ひと・しごと創生総合戦略」【政策概要】～

学校を核として、学校と地域が連携・協働した取組や地域資源を生かした教育活動を進めるとともに、郷土の歴史や人物等をとり上げた地域教材を用い地域を理解し、愛着を深める教育により、地域に誇りを持つ人材の育成を推進し、地域力の強化につなげていく。（一部抜粋） ⇨「まち・ひと・しごと創生法」の成立（H26.11）

～「まち・ひと・しごと創生基本方針2021」（R3.6.18）～

### 《地方創生を担う「人づくり」のための多様な主体の連携》

コミュニティ・スクールと地域協働活動の一体的推進による、地域と学校の連携・協働体制を構築するための取組を一層推進する。（中略）まちづくりのプラットフォームになり得る学校を核とした地域づくりを推進するとともに、地域とともにある学校づくりを推進する。（一部抜粋）

国の動向からも、いかにコミュニティ・スクールの仕組みが期待されているかわかります。地域や社会を担う人材を育て、地域を元気にする、地域（ふるさと）に誇りや愛着をもつ子ども（後継者）を育成するには、幼少期からの地域の関わりが必須となります。学校と地域のつながりの中で、地域の良さを再発見し、学習と協働活動を通して地域を活性化し、地域社会総掛かりで温かい風土を育てていきましょう。

本市でもコミュニティ・スクールの取組により、地域・学校の連携・協働による学校づくりが進み、「子ども（学校）を核とした地域づくり（スクール・コミュニティ）」が少しずつ進んでいます。更なる一歩前へ向けて教育委員会事務局としても支援してまいります。

# コミュニティ・スクールだより



第28号

名張市教育委員会事務局発行  
令和4(2022)年1月5日

## 学校と地域の連携・協働

### 地域を考え 地域に発信！！

#### 交通安全標語、あいさつ標語の立て看板設置

つつじが丘・春日丘自治協議会では、1学期からつつじが丘小学校の6年生に交通安全標語を、南中学校の3年生にあいさつ標語を募集しました。該当学年の児童生徒が考えた標語を、地域住民や教職員が投票により各10点ずつ優秀作品を選びました。この取組は、3年目となりました。

また、選ばれた標語を記した立て看板も自治協議会の協力により、学校周辺に設置されました。

10月には、各学校では、自治協議会からの表彰式も行われました。

育てたい子どもの姿の共有  
学校課題、地域課題の解決に向けて！

南  
中  
校  
区

#### 地域のコミュニティの輪を広げる標語展

12月、桔梗が丘自治連合協議会生活安全部会の主催で、桔梗が丘小学校、桔梗が丘南小学校、桔梗が丘東小学校の6年生に、地域コミュニティの輪を広げる目的に標語を募集し、児童たちの作品が桔梗が丘市民センターのロビーに展示されました。

子どもたちは、地域を安全・安心で笑顔あふれる住みよいまちにしたいとの思いで、交通安全、防災、環境、ごみ問題、あいさつ等の標語を考えました。

学校と地域が共通の目標や育てたい子どもの姿の実現に向けて、意図を持って連携・協働することにより、子どもを核とした地域づくり(コミュニティ)につながっていくことを願っています。

## コミュニティ・スクールのメリット・効果

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組みを導入することによるメリットとして、主に以下の3つが挙げられます。(参考:文科省 コミュニティ・スクールのつくり方)

### ① 組織的・継続的な体制の構築 = 持続可能性

校長や教職員の異動があっても、学校運営協議会によって地域との組織的な連携・協働体制がそのまま継続できる「持続可能な仕組み」です。

### ② 当事者意識・役割分担 = 社会総掛かり

学校運営協議会の協議や熟議の場を通して、子どもたちがどのような課題を抱えているのか、地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのかという「目標・ビジョンを共有」できます。

### ③ 目標・ビジョンを共有した「協働」活動

校長が作成する学校運営の「基本方針の承認」を通して、学校や地域、子どもたちが抱える課題に対して関係者全てが当事者意識をもち、「役割分担をして連携・協働による取組」ができます。

コミュニティ・スクールは、学校運営や学校の課題に対して、広く保護者や地域住民が参画していく仕組みです。当事者として、子どもの教育に対する課題や目標を共有することで、学校を支援する取組が充実するとともに、関わる全ての人にとって様々な効果が生まれます。

#### 【子どもにとって】

- 子どもたちの学びや体験活動が充実します。
- 自己肯定感や他人を思いやる心が育ちます。
- 地域の担い手としての自覚が高まります。
- 防犯・防災等の対策によって、安心・安全な生活ができます。

#### 【地域住民にとって】

- 経験を生かすことで、生き甲斐や自己有用感につながります。
- 学校が社会的につながり、地域のよりどころとなります。
- 学校(子ども)を核とした地域ネットワークが形成され、地域の課題解決につながります。
- 地域の防犯・防災体制等の構築につながります。

#### 【保護者にとって】

- 学校や地域に対する理解が深まり、家庭教育との相乗効果が生まれます。
- 地域の中で子どもたちが育てられているという安心感があります。
- 保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できます。

#### 【教職員にとって】

- 地域の人々の理解と協力を得た学校運営や「社会に開かれた教育課程」の実現が可能となります。
- 地域人材を活用した教育活動が充実します。
- 地域の協力により、子どもと向き合う時間が確保できます。

#### 山口県の取組に学ぶ

11月1日に「地方創生フォーラムin山口」が開催され、研修用動画が専用Webページにて、令和4年1月末までご覧いただけます。下記URLから受付フォームにアクセスしてお申し込みください。



# コミュニティ・スクールだより



第29号

名張市教育委員会事務局発行  
令和4(2022)年1月12日

## 学校と地域が連携・協働することによる効果

～名張中学校 コミュニティ・スクール成功に向けて～

## 学校運営への参画に向けて～学校運営協議会の充実～

名張中学校では、学校運営協議会の活性化及びコミュニティ・スクール(以下、CS)の推進・充実に向けて、学校運営協議会委員と教職員が一体になり、当事者意識を持った連携・協働による工夫を凝らした運営や取組が行われています。

### 【第1回学校運営協議会 運営の工夫】

- ①担当教員Aから、名張中学校や生徒の様子についてDVDによる映像と、「名中愛」についての説明。
- ②教頭から、昨年度のCSの取組について報告。
- ③校長から、本年度の学校経営計画に基づく学校運営の基本方針の説明。
- ④担当教員Bから、本年度の活動について、CSの年間計画表(下表)をもとに説明した後、協議。



資料だけでなく  
ICTをフルに活用

R3 名張市立名張中学校 CS 年間計画表

月	項目	内容	その他	学校行事
4月				始業式・入学式
5月	第1回CS協議会 (22日 14:00～)	① 協議会の開催について ② 学校運営協議会委員について ③ コロナ禍における学校生活の様子について ④ 学校経営計画及び学校経営計画の更新について その他	校長挨拶(1分) 「球技教室」 「球技教室」でできるもの 「球技教室」の取組が、学校 経営や生徒生活についてどう 貢献しているか ⑤ 具体的な取組が可能なか ⑥ 協議会の11月20日の防災訓練の 計画を聞かせてもらう ⑦ 協議会委員の役割を説明する ⑧ 協議会委員の役割を説明する	中庭フェスティバル 全国学力・学習状況調査 名張市立名張中学校
6月				体育祭 結束フェスティバル 結束祭行(3年)
7月				終業式 中庭フェスティバル・三鷹祭大会
8月				夏休み
9月	放課後寺子屋	① 寺子屋の目的 ② 寺子屋の開催場所について、開校下校後での 開催が、地域や関係者の理解を得る ③ 名張市立名張中学校の運営に資する について	協議会委員の活用	協議会
10月				文化祭 中庭フェスティバル
11月	第2回CS協議会 (19日 19:00～) 名張市立名張中学校の 防災訓練と連携した 防災訓練(20日)	① 協議会の開催について ② 学校運営協議会委員について ③ コロナ禍における学校生活の様子について ④ 学校経営計画及び学校経営計画の更新について その他	協議会委員の活用	結束フェスティバル 結束祭行 終業式 中庭フェスティバル・三鷹祭大会
12月				終業式
1月				始業式
2月				結束フェスティバル 結束祭行 終業式 中庭フェスティバル・三鷹祭大会

一目でわかる  
工夫された

### 【第2回学校運営協議会 運営の工夫】

- ①校長から、パワーポイント(44スライド)で学校の現状報告。
- ②担当教員Bから、本年度のCSの活動状況について報告。
  - 放課後寺子屋について
    - ・取組の現状と成果、課題についてスライドで説明。
    - ・参加生徒へのインタビュー動画を視聴。
  - 防災訓練(11月20日)の企画について
    - ・在宅時での災害を仮定した訓練の実施について説明。
- ③来年度のCSに向けて
  - 校長から本年度の成果報告と課題提起。
  - 具体的な取組や支援について、一歩前に進んだ活動になるように協議。



校長だけでなく、教職員と  
地域住民が、顔の見える関  
係づくりを積極的に行う。

「今年できるところからやっつけよう！」  
という意見が出されました。

## 《名張中学校 放課後寺子屋》

めざす学校像である「どの子どもも生き生きと輝く学校」「なにげない毎日が幸せと感じることが出来る学校」の実現をめざして、教育課程外となる放課後に、地域の方々の力を借りて、生徒の学びや居場所づくりの支援をする。

【活動日・場所】 週一回程度、放課後、図書室を中心

★学校支援の充実★

### 【活動内容】

- (1) 補充学習等の学習支援(教科学習を苦手としている生徒を中心とした支援)
- (2) 学習支援ではなく、図書室に居ていただき、可能な時には、生徒の思いや悩み等を聞いていただくなど、生徒の心の居場所づくりの支援。



2月に行う第3回学校運営協議会で、来年度に向けて、活動のさらなる充実や学校教育目標について、意見交流を行う予定。

CSの設置が努力義務化(平成29年4月)され、現在の全国のCSの数は、11,856と増え続けています。CSの普及が進む中で、学校と地域が互いにパートナーとして「Win=Win」の関係であり続けるためには、安定的にCSに参画する人材を確保したり、学校と地域との連携・協働の関係を維持・発展したりするといった視点が必要であるといわれます。言い換えると「持続可能性」のための視点です。子どもの学びや学校教育活動を通じて多くの人に関わることを大切にしながら、人と人がつながり続ける。いかにつなげるか、つながり続けられるかが、「地域とともにある学校づくり」の成功の鍵だと思えます。

学校・家庭・地域・児童生徒のつながる仕組み=コミュニティ・スクール

校長と会長・副会長が事前  
打ち合わせし、かつリトリアウ。

# コミュニティ・スクールだより



第30号

名張市教育委員会事務局発行  
令和4(2022)年1月19日

## 学校と地域が連携・協働 錦生赤目小学校

～「地域とともにある学校」をめざして～

コミュニティ・  
スクール推進目標

**すべては、子どもたちのために**  
— 学校・家庭・地域が協働して、子どもを育てる —

錦生赤目小学校には、令和3年11月27日に開催した名張市教育実践交流会で、実践発表をしていただきました。コミュニティ・スクールの推進・充実に向けて、校長のリーダーシップのもと、学校と二つの地域（錦生地域、赤目地域）が一体となり、互いのつながりや信頼関係を大切に、地域人材や資源等を生かした、連携・協働による運営や取組の一部を紹介します。

### 【学校運営協議会 運営の工夫】

◎年間3回を基本として開催 ⇨運営協議会委員が参加しやすいように設定  
☞ 第1回…午前開催、第2回…午後開催、第3回…夜間開催

◎具体的なテーマを設定して、熟議を実施

#### ※ これまでの熟議テーマの例

- ◆地域（ふるさと）を愛する、地域（ふるさと）で住みつけたいと思わせる子どもたちを育てるために、学校・家庭・地域ができることは何か？
- ◆「持続可能な学校支援の仕組みづくり」のために、どのようなことをしていくとよいのか。また、保護者や地域に啓発していくにはどうすればよいのか？
- ◆コロナ禍において、今、学校・家庭・地域ができることは何か？
- ◆コロナ禍での学校・家庭・地域の「協働」の機運を高めるために、子どもたちをはじめ、みんなが元気の出る取組をできないか？
- ◆子どもたちと地域が一緒になって学びをつくるために。

#### ★参加者の声★

- ◇話し合うことで、年々学校への親近感が高まっている。「地域が好き！」と言える子らを育てたい。
- ◇地域の行事に子どもたちが参画していくことも検討してはどうか。学校と地域が双方向で交流できるとよい。



熟議することで、めざすものや目標を共有し、協働のつなびを

## ～コロナ禍での学校・家庭・地域の「協働」の機運を高めるために～

コロナ禍で、子どもたちをはじめ多くの方が、一人ひとりの絆やつながりを持ちにくい環境となり、子どもたちの学びと育ちにも大きな影響を与えています。そのような中で、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしつつ、「子どもたちの豊かな学び」に向けて、協力・連携して取り組むことが重要であると考えました。そこで、「協働」の機運を高めるために、関わる多様な立場の人が、思いを出し合い、コロナの感染状況を踏まえたうえで、「今、どのようなことができるのか？みんなが元気の出る取組を展開できないか？」と、その実現・実行に向けたアイデアを出し合うなど、「熟議」を深めました。

### コロナ時代のチャレンジ！！

- ・今だからこそ、気付けることがある
- ・今だからこそ、できる教育活動がある
- ・今だからこそ、鍛えられる力がある

### 《学校から地域へ》

- ☞これまで校区の高齢者の方々には、むかし遊びを教えていただいたり、運動会を参観いただいたりと、子どもたちとふれあい、子どもの姿を見ていただく機会があったが、残念ながら今はコロナ禍でできない。
- ☞校区で、一人暮らしをしている高齢者の方に対して、「自分たちと一緒にコロナ禍を頑張っていこう！」という、「はげましのメッセージ」を作成したらどうか。

子どもたちが一人暮らしの高齢者の方に手紙やプレゼントを作成し、地域の方々（民生委員）に届けてもらおう！ ⇨ 1学期後半作成、9月以降配布

児童会の運営委員が、各学年の教室で今回の取組や制作の手順等を説明  
低学年…主にプレゼント作成  
高学年…主に手紙作成



### 《地域から学校へ》

現在、SDGsの一環として、赤目地域で取り組んでいる「竹あかり」等の竹細工を、小学生に広める取組を進めよう！

- ☞現在、各地域ごとに「竹あかり」作りを行っており、子どもたちが、地域のことや良さを知り得る一つの機会となる。
- ☞子どもたちが、地域を好きになり、将来、住み続けたいと思えるような地域の魅力を発信していく機会につながる。
- ☞6年生に教え、作った作品を卒業式で飾ってみてはどうか。良い思い出になるのではないか。

つながりが生まれ、スクール・コミュニティ(子どもを核とした地域づくり)へ



夏季休業中に教職員が竹あかりづくり体験

地域の方に支援いただきながら、児童会が竹あかりづくり体験

冬には、まちづくり委員会主催で和風を制作し、風揚げ大会開催